

自然と、あなたと、ともに未来へ。



報道関係者各位

2021年12月10日

株式会社レノバ

米領サモアにおける蓄電池併設型陸上風力事業の実現に向け 日本工営株式会社と共同で SPC を設立

株式会社レノバ（東京都中央区、代表取締役社長 CEO 木南 陽介）は、日本工営株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 新屋 浩明 以下「日本工営」といいます）とともに、米領サモア Tutuila 島（以下「Tutuila 島」といいます）における蓄電池併設型陸上風力事業の実現に向け、米国デラウェア州に Pacific Rim Energy Inc. 及び米領サモアに Tutuila Wind Energy LLC を設立し、米領サモアの公機関である American Samoa Power Authority（以下「ASPA」といいます）との電力購入契約の契約上の権利を取得いたしました。

米領サモア最大の島である Tutuila 島は、発電量の 90%以上を島外から輸入した軽油による発電で賄っており、2021年11月時点で住宅向け電力価格は 33.3US セント/kWh と非常に高価となっています。このような背景から、米領サモアは 2016年9月に公表したエネルギーアクションプランにおいて、2025年までに米領サモア全体の発電量に占める再生可能エネルギー比率を 50%、2040年までに 100%とする目標を掲げています。

本事業の実現によって、Tutuila 島の発電量に占める再生可能エネルギーの比率を 50%以上に高めることが見込まれており、米領サモアの脱炭素化及び電力価格の低減に大きく寄与することが期待されています。Tutuila 島の系統は小規模のため、出力変動の大きい風力発電の導入に向けては技術的な課題もございますが、当社が有する再生可能エネルギー発電所の開発に関する知見と、日本工営が有する蓄電・系統安定化に関する知見を合わせ、事業性の調査・検討、また環境影響評価を含めた各種許認可の取得等を行い、米領サモアの課題解決に向けて ASPA と協働して事業を進めてまいります。

世界各国で脱炭素化に向けた再生可能エネルギーの導入が進められる中で、島嶼部など小規模な系統の環境における再生可能エネルギーの導入に対する技術的課題の解決が求められています。当社のミッションである「グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムを構築し、重要な社会的課題を解決すること」の実現に向け、今後も再生可能エネルギーの導入に伴う諸課題に正面から取り組み案件の開発を進めてまいります。

事業概要

名称（仮）	American Samoa Hybrid Wind Project
事業主体	Tutuila Wind Energy LLC(*1)
建設地	米領サモア Tutuila 島
設備容量(計画値*2)	風力発電所：42.0MW 蓄電池：40MWh
事業期間	商業運転開始後 25 年間

*1: Tutuila Wind Energy LLC の出資比率は Pacific Rim Energy Inc. : 100%、Pacific Rim Energy Inc. の出資比率は株式会社レノバ : 50% 日本工営 : 50%です。

*2: 今後の技術的検討を踏まえ変更の可能性があります。

日本工営株式会社概要

日本工営は、開発・建設コンサルティングや電力エンジニアリングを行う総合建設コンサルティング会社であり、1946年の創業以降、160か国で実績を持つ建設コンサルタント業界のリーディングカンパニー。近年は技術知見を活かし自社での案件開発・事業投資分野を展開しており、再生可能エネルギー・蓄電分野における事業開発・事業投資を行っている。（東京証券取引所第一部上場、証券コード:1954）

American Samoa Power Authority 概要

American Samoa Power Authority は、米領サモアの発送電・小売を含む全域内の電力供給を管轄する公機関。米領サモアの上下水、廃棄物処理などの公共事業も管轄している。

以上